

鳥種特定調査結果（2024年）

（注：速報値のため今後変更の可能性あり）

第7回「鳥衝突防止対策検討会」（平成21年2月開催）において、衝突した鳥の種類を特定し、その鳥の生態に応じた防除手法の開発及び防除計画を策定する方針を決定

航空会社からの鳥衝突報告により、空港管理者が滑走路点検の際に回収した残留物または到着した機体から採取した残留物を調査機関へ送付し同定

形態同定 検体（主に羽、脚、頭部）と既存標本を比較して鳥種を特定

DNA同定 検体（主に血液、肉片）のDNAを解析し既存データと比較して鳥種を特定

□ 平成22年2月 調査開始 ※国管理空港に限定

□ 平成27年10月 調査対象空港を拡大

➤ 対象空港 7 5 空港（定期便の就航している空港）

□ 平成28年4月 調査対象事案の変更

➤ 航空機の損傷又は計画した飛行の変更を伴う鳥衝突事案

➤ 滑走路路上又はその近傍で発生した鳥衝突事案

➡ 最も衝突が多い「離着陸時」の鳥種を特定し、空港管理者による対策に資する

□ 令和6年度 調査対象空港 8 3 空港（公共用ヘリポートを含む）

➤ 航空通信を行うための無線電話を備えている一部の空港

◆ 調査件数 109件 ⇒ 38種類の鳥類を特定（鳥類以外：8件）

（2024年12月末時点）

調査件数：109件 内訳：DNA同定81件、形態同定 28件

調査空港：28空港

【内訳 国管理：9空港 18件、地方管理：7空港 22件、会社管理：12空港 69件】

航空機の損傷又は計画した飛行の変更を伴う鳥衝突事案：28件

【内訳・航空機の損傷のみ：7件

・計画した飛行の変更のみ：12件

・航空機の損傷かつ計画した飛行の変更：9件】

滑走路又はその近傍で発生した鳥衝突事案：53件

【内訳・離着陸滑走時に発生した事案：37件（離陸滑走12件、着陸滑走25件、）

・その他の飛行時（上昇、進入、タキシング等）で発生した事案：16件】

特定された種類	件数	特定された種類	件数
ヒバリ	12件	シロハラ	8件
コチドリ、シロチドリ、タヒバリ	各7件	アオサギ、ツバメ、トビ、ヤブサメ	各4件
カワラバト、ケリ、ハクセキレイ、マガモ	各3件	アカハラ、ウミネコ、キジバト、コガモ、チュウシャクシギ、 チョウゲンボウ、メダイチドリ	各2件
アオバト、アトリ、アマツバメ、オオムシクイ、オオメダイチドリ、オオルリ、カイツブリ、カワウ、カワラヒワ、ショウドウツバメ、チュウジシギ、ツグミ、トウネン、ミサゴ、ミソサザイ、ムクドリ、ムナグロ、メジロ			各1件

※鳥類以外の特定：8件（アブラコウモリ4件、キタクビワコウモリ1件、昆虫類3件）

鳥種特定作業報告書(航空機損傷事例)

バードストライクに係る鳥種特定作業報告書																																																				
発生年月日	便名(又は国籍及び登録記)	出発空港	目的空港	発生空港																																																
2024/4/19		羽田	秋田	秋田																																																
判明した鳥の種類		作業に使用した残留物の部位																																																		
目:ハト目 科:ハト科 属:キジバト属 種:キジバト		肉片																																																		
作業の方法		参照した標本・資料・データベースなど																																																		
形態同定 DNA 同定		NCBI(National Center for Biotechnology Information)																																																		
検体と既存標本データの比較結果																																																				
 ※検体の決定配列 309bp のうち、305bp を使用。ツバメ (<i>Hirundo rustica</i>) をアウトグループとした。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統樹サンプル名</th> <th>目名</th> <th>科名</th> <th>属名</th> <th>種名</th> <th>同一性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>007</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td><i>Streptopelia orientalis</i></td> <td>ハト目</td> <td>ハト科</td> <td>キジバト属</td> <td>キジバト</td> <td>99.67%</td> </tr> <tr> <td><i>Columba livia</i></td> <td>ハト目</td> <td>ハト科</td> <td>カワラバト属</td> <td>カワラバト</td> <td>99.84%</td> </tr> <tr> <td><i>Macropygia phasianella</i></td> <td>ハト目</td> <td>ハト科</td> <td>オナガバト属</td> <td>オナガバト</td> <td>99.10%</td> </tr> <tr> <td><i>Turacoenas nasutus</i></td> <td>ハト目</td> <td>ハト科</td> <td>ハルコバト属</td> <td>ハルコバト</td> <td>98.80%</td> </tr> <tr> <td><i>Treron sieboldii</i></td> <td>ハト目</td> <td>ハト科</td> <td>アオバト属</td> <td>アオバト</td> <td>95.90%</td> </tr> <tr> <td><i>Hirundo rustica</i></td> <td>スズメ目</td> <td>ツバメ科</td> <td>ツバメ属</td> <td>ツバメ</td> <td>91.93%</td> </tr> </tbody> </table> BLAST 検索の結果、決定配列はキジバトと高い相同性を示したため、表に示す近縁5種の配列とともに近隣結合法による系統樹を作成した。その結果、キジバトと100%のブートストラップ値で単系統群を形成した。以上の結果より、本検体をキジバトと同定した。					系統樹サンプル名	目名	科名	属名	種名	同一性	007	-	-	-	-	-	<i>Streptopelia orientalis</i>	ハト目	ハト科	キジバト属	キジバト	99.67%	<i>Columba livia</i>	ハト目	ハト科	カワラバト属	カワラバト	99.84%	<i>Macropygia phasianella</i>	ハト目	ハト科	オナガバト属	オナガバト	99.10%	<i>Turacoenas nasutus</i>	ハト目	ハト科	ハルコバト属	ハルコバト	98.80%	<i>Treron sieboldii</i>	ハト目	ハト科	アオバト属	アオバト	95.90%	<i>Hirundo rustica</i>	スズメ目	ツバメ科	ツバメ属	ツバメ	91.93%
系統樹サンプル名	目名	科名	属名	種名	同一性																																															
007	-	-	-	-	-																																															
<i>Streptopelia orientalis</i>	ハト目	ハト科	キジバト属	キジバト	99.67%																																															
<i>Columba livia</i>	ハト目	ハト科	カワラバト属	カワラバト	99.84%																																															
<i>Macropygia phasianella</i>	ハト目	ハト科	オナガバト属	オナガバト	99.10%																																															
<i>Turacoenas nasutus</i>	ハト目	ハト科	ハルコバト属	ハルコバト	98.80%																																															
<i>Treron sieboldii</i>	ハト目	ハト科	アオバト属	アオバト	95.90%																																															
<i>Hirundo rustica</i>	スズメ目	ツバメ科	ツバメ属	ツバメ	91.93%																																															
判明した鳥種の参考写真		判明した鳥種の生態特性(採餌、繁殖、分布、出現傾向、並びにバードストライクについて推定される考察)																																																		
 出典: BIRD FAN(日本野鳥の会)		【採餌】雑食性(果実や昆虫など)【繁殖】周年。ピジョンミルクで育てる。【分布】留鳥または漂鳥として本州以南の市街地から亜高山帯まで広く分布。北海道では夏鳥。【出現傾向】畑地や集落、雑木林に多い。【考察】秋田空港の周りには森林が広がっていることから、周辺の生息個体であると推測される。																																																		

検体回収日	回収形態	業務日誌・点検票	検体番号
2024/4/19	不明	—	004
発生(回収)場所		右ランディングギア	
検体写真  肉片			
飛行区分 : 着陸滑走 使用滑走路: データなし 機体損傷 : なし 運航損傷 : なし その他 : なし			
その他参考となる事項			
備考			
作業開始日(検体受領日)	調査完了日	添付物	作業担当者氏名
2024年5月8日	2024年6月11日	あり なし	
・本様式に記述できないものは別紙とすることができる。 ・DNA 同定によって種が特定できない場合は、近似する首都の同一性(塩基配列の一致率)を示し、技術的に可能な範囲において、目、科及び属を特定すること。また、特定できなかった理由(検体の保存方法、梱包方法等の改善事項を含む)を「その他参考となる軸尾」欄に添付すること。			

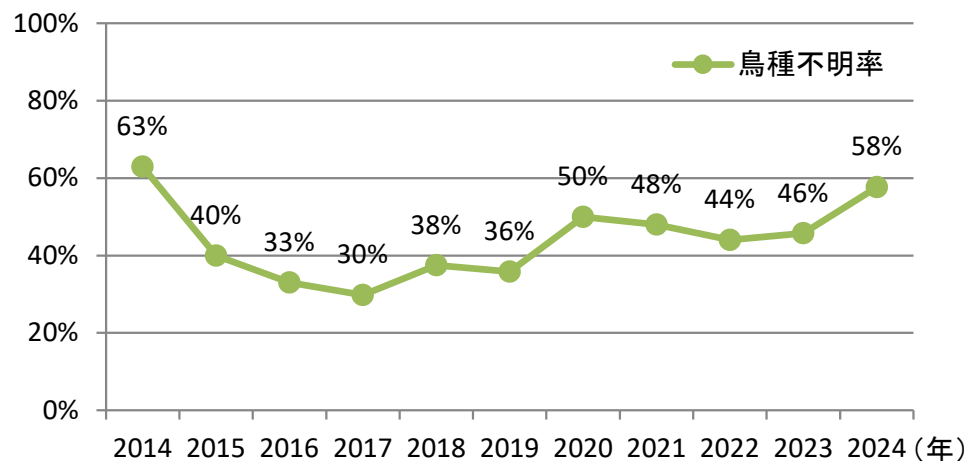
鳥種不明率の年推移(2021-2024年)

鳥 衝 突 事 案	衝突件数 (うち鳥種不明件数)			鳥種不明率			
	2022年	2023年	2024年*	2022年	2023年	2024年*	前年比
航空機損傷を伴う事案	46件 (20件)	59件 (27件)	71件 (41件)	43.5%	45.8%	57.7%	+11.9
離着陸滑走時に発生した事案	670件 (227件)	732件 (231件)	830件 (283件)	33.9%	31.6%	34.1%	+2.5
(上記の合計)	716件 (247件)	791件 (258件)	901件 (324件)	34.5%	32.6%	36.0%	+3.4
鳥衝突事案 (全体)	1421件 (783件)	1499件 (829件)	1647件 (930件)	55.1%	55.3%	56.5%	+1.2

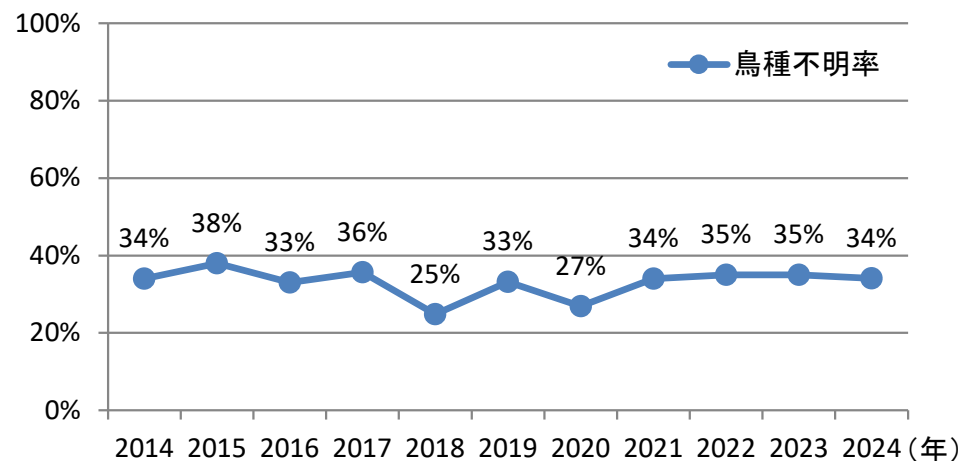
* 2024年1-12月速報値

鳥種不明率の年推移(2014-2024年)

航空機損傷事案において「鳥種不明」が占める割合
(2014-2024 年)

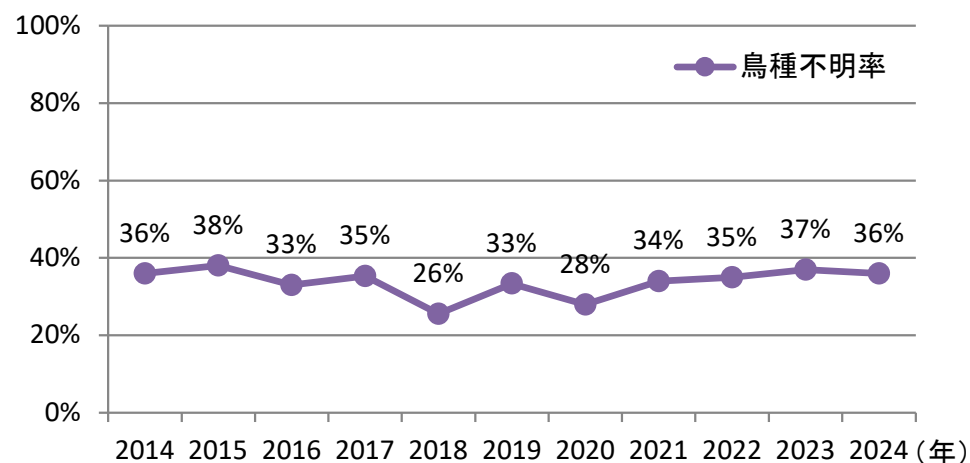


離着陸滑走時において「鳥種不明」が占める割合
(2014-2024 年)

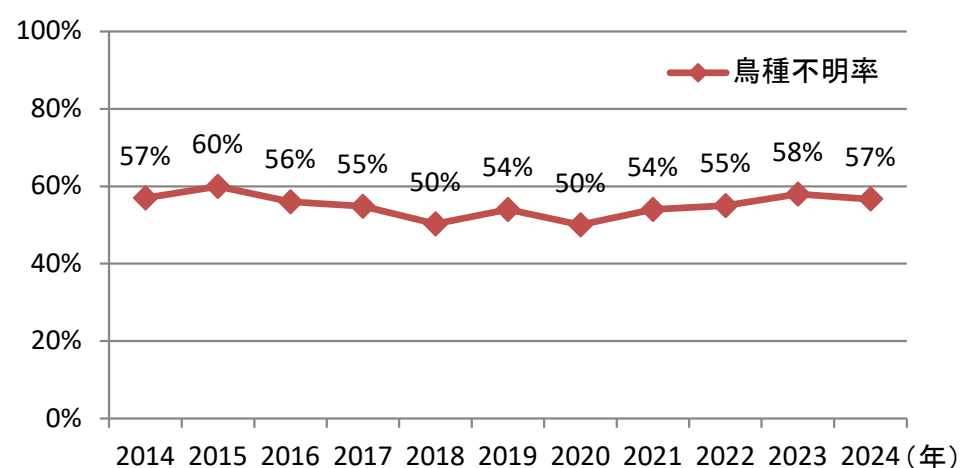


* 2024年1-12月速報値

航空機損傷事案又は離着陸滑走時において
「鳥種不明」が占める割合 (2014-2024 年)



鳥衝突事案全体において「鳥種不明」が占める割合
(2014-2024 年)



* 2024年1-12月速報値